

# エコアクション21 環境経営レポート 2022年



発行日 2023年2月23日

 平沢電機株式会社

# 目次

- 1 組織の概要**
  - 1-1 事業者名、所在地、事業の概要 事業の規模
  - 1-2 沿革
  - 1-3 設備概要
  
- 2 対象範囲**
  - ・環境経営組織図
  
- 3 環境経営方針**
  - ・環境経営理念 環境経営方針
  
- 4 環境経営目標**
  - 4-1 中期環境経営目標
  - 4-2 2022年環境経営目標
  
- 5 環境経営計画**
  
- 6 環境経営計画に基づき実施した取組内容（実施体制を含む）**
  
- 7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価**  
**（実績には二酸化炭素排出量を含む）、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画**
  - 7-1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価
  - 7-2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画
  
- 8 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無**  
「環境法令等登録書兼チェック表」より
  
- 9 代表者による全体評価と見直し・指示**  
マネジメントレビューより
  
- 10 その他の取り組み、トピックス**
  - ・AED導入に伴う救命講習会実施・2022年健康優良法人継続認定 ・社屋周辺の3S次活動
  
- 11 総合防災訓練・全体研修を実施**

# 1. 組織の概要

## 1-1 事業者名、所在地、事業の概要、事業の規模

- (1) 事業者名 平沢電機株式会社  
代表者名 代表取締役 平澤 敏樹 (2018/12/1より)
- (2) 所在地 本社工場 〒399-4431長野県伊那市西春近2900番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
環境管理責任者 事務局 総務部門長 浦野 安明  
担当者 同上  
連絡先 電話 0265-72-4136 F A X 0265-76-1990  
ホームページ <https://www.hirasawadenki.com/>  
e-mail [info@hirasawadenki.com](mailto:info@hirasawadenki.com)

### (4) 事業の規模等

- 1) 創業 昭和35年7月  
2) 事業規模 右表  
3) 資本金 1050万円

活動規模	単位	2020年	2021年	2022年
生産量	百万円			
売上高	百万円	374	507	680
従業員	人	60	65	77
床面積	m <sup>2</sup>	7260	7260	7260

### (5) 事業内容

精密機器の部品加工・検査・組立

## 1-2 沿革

- 昭和35年 日立家電販売修理を業務として平沢電機株式会社を設立  
昭和40年 工作所設立、オリンパス製品加工開始  
昭和43年 オリンパス顕微鏡組立開始  
昭和49年 オリンパス光学、カメラ組立開始  
昭和59年 本社工場（延べ床面積3,300m<sup>2</sup>）建設工作所・中央工場を併合集約  
昭和63年 姉妹会社(株)アジアエレクトロニクス設立  
平成 1年 信濃特機(株)子会社の天竜特機(株)を引き継ぎグループ3社とする  
平成 2年 資本金1,050万円に増資  
平成 7年 本社工場南側増築工事完了  
平成 9年 本社工場北側増築工事完了  
平成12年 ISO9001取得  
平成17年 1F北側工場改築（延べ床面積5,980m<sup>2</sup>）  
平成18年 環境 エコアクション21取得  
平成19年 北側新工場建築（5軸加工機専用）（延べ面積7260m<sup>2</sup>）  
平成20年 厚生労働省快適職場認定  
平成21年 エコ通勤優良事業所認証  
平成25年 長野県労働局長奨励賞受賞  
平成27年 エコアクション21 登録・認証10年継続事業者表彰  
令和 1年 A Mシステムズ（株）業務提携  
令和 2年 JIS Q 9100 取得（ISO 9001:2015 移行済）

### 1-3 設備概要

種類/Category	メーカー/Maker	形式/Type	移動量/Distance X・Y・Z(mm)	特徴/Features	台数/ /Number	
マシニングセンタ/MC	安田工業/YASDA	★YBM-1200N ①	X3000 Y2100 Z1500	横形 4パレット仕様 /Transversal 4 Pallets	1台/1ea	
	新日本工機 /SHIN NIPPON	RB-350F ②	X8000 Y3500 Z1700	門形 5軸 /Gantry 5 Axis	1台/1ea	
	東芝機械 /TOSHIBA MACHINE	MPF-3140DS	X4000 Y3100 Z715	門形/Gantry	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	a51	X560 Y560 Z560	横形 8パレット仕様 /8 Pallets	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a51nx ③	X560 Y640 Z640	横形 立体3段パレット仕様 /3 Decker Pallets	1台/1ea	
	<b>2022年4月導入</b>	<b>牧野フライス/MAKINO</b>	<b>★a51nx</b>	<b>X560 Y640 Z640</b>	<b>横形 2パレット仕様 /2 Pallets</b>	<b>1台/1ea</b>
	牧野フライス/MAKINO	★a81	X900 Y800 Z1020	横形 8パレット仕様 /8 Pallets	1台/1ea	
	安田工業/YASDA	★H40i	X875 Y740 Z685	横形5軸立体2段パレット仕様 /5 Axis 2 Decker Pallets	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a61nx	X730 Y730 Z680	横形5軸立体3段パレット仕様 /5 Axis 3 Decker Pallets	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	★a500Z ④	X730 Y750 Z500	横形5軸立体3段パレット仕様 /5 Axis 3 Decker Pallets	1台/1ea	
NC旋盤/NC LATHE	牧野フライス/MAKINO	FNC156	X1500 Y600 Z560	立形/Vertical	1台/1ea	
	牧野フライス/MAKINO	GN1712	X1700 Y1200 Z700	立形/Vertical	1台/1ea	
	ツガミ/TSUGAMI	NU4Y	X135 Y50 Z190		3台/3ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	★INTEGREX i-500S 2500U ⑤	X845 Y430 Z2594	背面加工可能 /Back Face Processing	1台/1ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	★INTEGREX 200-III S	X580 Y160 Z1045		1台/1ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	★INTEGREX 300-III S	X630 Y230 Z1585	背面加工可能 /Back Face Processing	1台/1ea	
	ヤマザキマザック /YAMAZAKI MAZAK	INTEGREX300Y	X580 Y210 Z1095		1台/1ea	
	森精機製作所 /MORI SEIKI	ZL-250MC	X235 Y170 Z615		1台/1ea	
	NCフライス盤 /NC MILLER	牧野フライス/MAKINO	AEV-85	X850 Y500 Z400		1台/1ea
	三次元測定器 /3 Dimensional CMM	ミットヨ/MITUTOYO	★Bright-Apex1220	X1205 Y2005 Z1005		1台/1ea
ミットヨ/MITUTOYO		CRYSTA- ApexS9106	X905 Y1005 Z605		1台/1ea	
<b>2022年12月新規導入/ 三次元画像寸法測定器</b>		<b>キーエンス/KEYENCE</b>	<b>LM-100TL</b>	<b>3つの方法により高精度測定を実現</b>	<b>1台/1ea</b>	

#### 使用しているCAD/CAMソフト/ Using CAD/CAM software

- VERICUT (CGTech)
- AutoCAD (AUTODESK)
- CATIA V5 (Dassault Systems)
- NCVIEW (Cimple Tech)
- CAM-STAFF (SOFTECH)
- Mastercam (CNC Software) 3台/3ea
- SolidWorks (Dassault Systems) 3台/3ea

①



②



③



④



⑤



## 2. 対象範囲

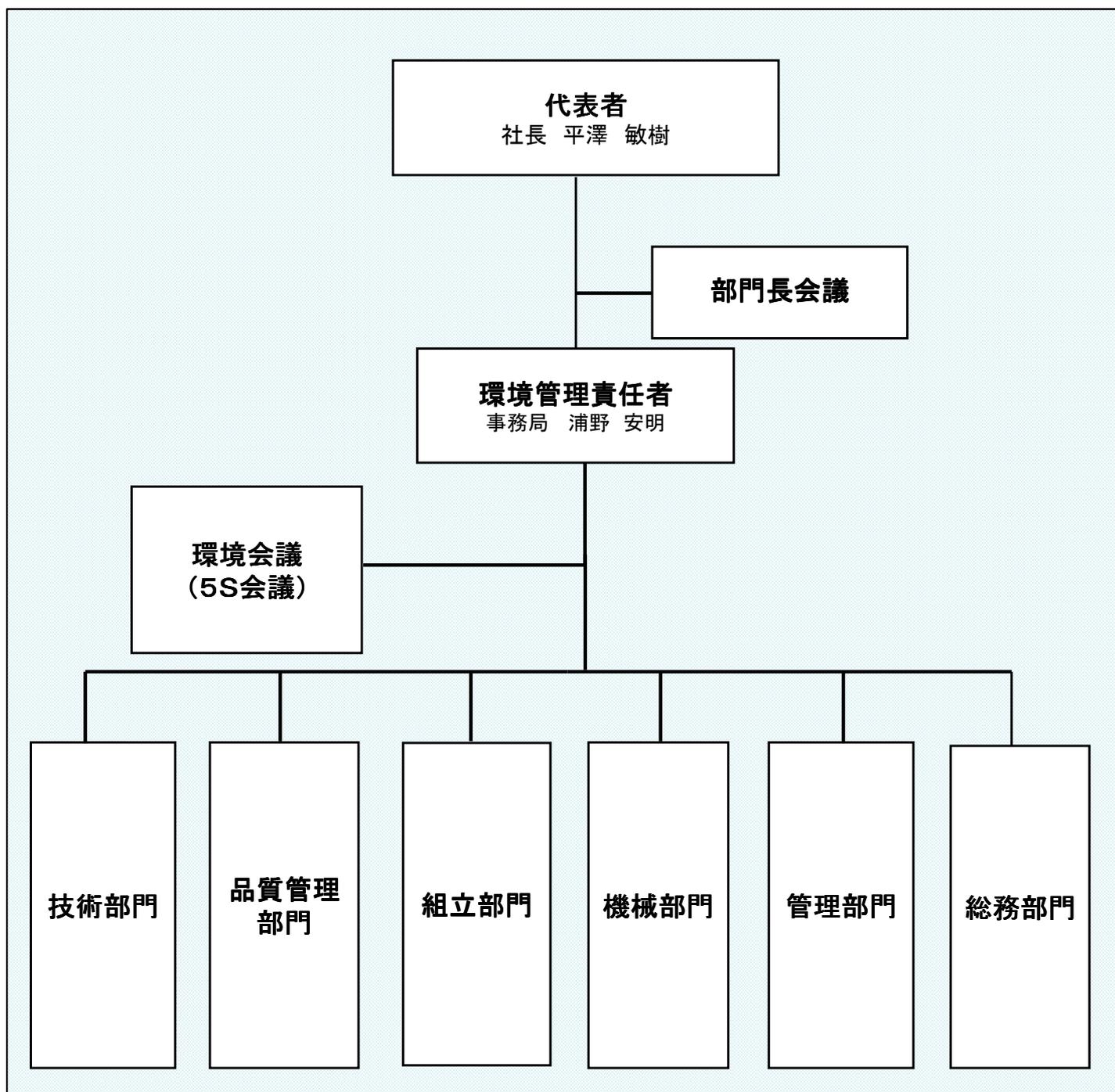
対象期間： 2022年1月1日～2022年12月31日

発行日： 2023年2月23日

対象範囲： 長野県伊那市西春近 2898番地～2900番地にある平沢電機株式会社の所有するすべての土地・建造物とそこで働く全従業員が対象組織であり、その組織のすべての活動をもってエコアクション21に取り組み、環境経営システムを構築、運用、維持するものとする。

平沢電機株式会社は以下の組織に基づき環境活動を行っている。

### E A21環境経営組織図



### 3. 環境経営方針

#### <平沢電機株式会社 環境経営方針>

##### 環境経営理念

自然環境に優れたこの地に存在する私達 平沢電機株式会社は、この豊かな自然環境に感謝と誇りの念を持ち、一人ひとりが自主的な環境保全の意識を持って環境負荷低減に向けた活動を行い、人と地球にやさしい工場作りを目指します。

##### 環境経営方針

- 1.適用される環境関連法規等や当社が約束したことを遵守します。
- 2.製造部門での品質安定化・製造工程短縮化によって二酸化炭素排出量・使用化学物質・廃棄物・水の使用量の削減、及び省資源の推進をはかります。
- 3.事業活動によって生じる廃棄物のリサイクル化に取り組みます。
- 4.環境や資源に配慮した製品や原材料調達を心がけます。
- 5.水質汚濁の防止に努めます。
- 6.全従業員に朝礼、会議、研修、掲示等でこの環境方針を周知・理解させ、環境に関する教育訓練を行います。
- 7.従業員にエコ通勤をすすめ、社用車でのエコ運転の実施に努めます。
- 8.経営における課題とチャンスを考慮して環境経営目標を定め、それに取り組み、定期的に見直しをすることにより環境経営の継続的な改善を行います。

2018年12月25日  
平沢電機株式会社  
代表取締役社長 平澤 敏樹

## 4. 環境経営目標

## 5. 環境経営計画

### 1) 中期環境経営目標（2022-2024）は以下の通り 計画を含む

環境目的	具体的目標	責任者/対象部門	基準年度 or 基準値	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	総務部門長/ 全社	前年実績1% 減	2021年実績1%減	2022年実績1%減	2023年実績1%減
	冬季(12月~2月)を除いたエコ 通勤の維持継続、 エコドライブ実施(管理部門)	総務・管理部門長/ 全社	2021年目標値 +1日	31日/月以上	31日/月以上	31日/月以上
廃棄物排出量削減	可燃ゴミと廃油削減	総務部門長・機械 部門長(廃油)/全 社	各前年実績1% 減	2021年実績1%減	2022年実績1%減	2023年実績1%減
	機械・備品の長期使用	製造部門長/ 製造部門	部門目標	各種メンテ・点検の実施、修理実施・部品リサイクル促進		
水使用量削減	水使用量維持管理	総務部門長/ 全社	前年実績の 1%減	2021年実績1%減	2022年実績1%減	2023年実績1%減
				漏水チェック、生活水と洗浄・パレル水・切削水等管理		
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理・製造部門長/ 管理・製造部門	維持 部門目標	各部門目標	各部門目標	各部門目標
				取引先使用禁止物質調査、維持 部門使用化学物質管理、削減		
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持	総務・管理部門長/ 総務・管理部門	活動維持	各部門目標	各部門目標	各部門目標
				グリーン調達手順に添った購買活動、グリーン調達先管理		
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・技術 各部門長/ 同部門	部門目標	各部門目標	各部門目標	各部門目標
	工程時間削減・ 環境負荷削減の工夫	製造・技術部門長/ 製造・技術部門	部門目標	各部門目標	各部門目標	各部門目標
	不良損金削減	品質管理部門長/ 機械部門	品質目標と同じ	各部門目標	各部門目標	各部門目標
				3Sの徹底、不良発生原因調査・対策検討実施		

## 2) 2022年環境経営活動計画

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等	2022年の主な行動計画
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	総務部門長/ 全社	前年実績1%減 653.202kg/CO2以下	①デマンドコントローラー・スマートクロックによる監視・管理 ②節電対策実施 ③節電設備検討 ④省エネ委員活動 ⑤節電表による管理継続
	冬季(12月~2月)を除いた エコ通勤の維持継続・エコドライブ実施(管理部門)	総務・管理部門長/ 全社	31日/月以上	①エコ通勤呼びかけ、活動報告掲示 ②駐輪場整備・自転車点検整備等 ③信州スマートムーブ参加 ④社用車のエコドライブの実施
廃棄物排出量削減	可燃ゴミと廃油削減	総務・機械部門長 (廃油)/全社	前年実績1%減 (ゴミ153.25kg/月 以下) (廃油1.518t/月以下)	①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけ ②月ごと結果発表掲示 ③コピー両面使用 ④電子媒体促進、配布書類削減 ⑤廃棄物削減把握削減 ⑥油漏れ対策
	機械・備品の長期使用	製造部門長/ 製造部門	部門目標	①予知保全を考慮した各種設備備品日常・定期点検の実施 ②整備点検教育の実施 ③各種精度点検の実施 ④レベル点検 ⑤設備保全技能教育
水使用量削減	水使用量維持管理	総務部門長/ 全社	前年実績1%減 (75.57t/月以下)	①毎月使用量内訳再把握 ②水漏れ点検 ③生活排水の節水呼びかけ ④月使用量のグラフ作成掲示
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理・製造部門長/ 管理・製造部門	維持 部門目標	①使用禁止物質の含有量調査(客先調査協力時)記録 (管理部門) ②新規溶剤等購入時にSDS取得 ③主要溶剤・切削油管理・削減(製造部門)
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持	総務・管理部門長/ 総務・管理部門	活動維持	①グリーンサプライヤーからの購入維持 ②グリーン調達基準に基づく購入継続
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・技術各 部門長/ 同部門	部門目標	①新規品の取り込み、新規開拓 ②材料費の見直し ③経費節減 営業外収益
	工程時間削減・環境負荷削減の 工夫	製造・技術部門長/ 製造・技術部門	部門目標	①工数把握 加工時間短縮 ②工程管理表の有効活用 ③プログラム修正 ④工程削減治具作成 ⑤外段取りの構築 ⑥環境負荷削減の工夫・検証
	不良損金削減	品質管理部門長/ 機械部門	25万/月以下	①不良集計表の作成・掲示 ②不良原因調査・対策実施 ③不具合対策表・不良損金報告書作成

## 6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容 (実施体制を含む)

### 1 CO2排出量削減

- ① デマンドコントローラー・スマートクロックによる日々の電気使用の監視・管理と電力契約の切り替えによる電気料金削減 (総務部門)
- ② 省エネ委員活動-----毎日の節電内容を記録、結果を部門毎に全社掲示 (全部門)
- ③ 設備の長期使用・故障対策活動のレベルアップに設備保全技能教育を機械部門の全管理者が受講し技能検定1,2級取得 (社長・生産部門)
- ④ 節電設備推進—全て水銀灯のLED化完了、蛍光灯のLED化の推進継続 (総務・技術部門)
- ⑤ 毎月月初に電気使用量とCO2排出量のグラフを掲示 (総務部門)
- ⑥ 長野県緑の募金への寄付 令和4年6,935円 (総務部門)

### 2 廃棄物排出量削減

- ① リサイクルゴミ仕分け徹底と可燃ゴミの目標管理・グラフ掲示 (総務部門)
- ② 配布書類削減のため各種会議でのプロジェクター利用推進 (総務部門)
- ③ 電子媒体促進---公的機関提出物関係電子申請移行推進 (総務部門)
- ④ 廃棄切削油把握削減---削減目標管理、グラフ掲示 (機械部門)
- ⑥ 油漏れ対策----職場の3S・機械メンテの徹底と修理等を削減 (機械部門)
- ⑦ 予知保全を考慮した各種設備備品日常・定期点検の実施 (技術部門)
- ⑧ 整備点検教育の実施/各種精度点検・レベル点検実施 (機械部門)
- ⑨ 設備保全技能教育の奨励---令和4年-機械保全技能士資格者 1級7名 (機械・技術部門)

### 3 水使用量削減

- ① 毎月使用量内訳把握と管理 生活使用水、機械職場4箇所の使用量計測管理、月次使用量のグラフ作成掲示 (総務・機械部門)
- ② 水漏れ点検の毎月実施 (期間内水漏れ無し) (総務部門)
- ③ 生活排水の節水呼びかけ推進(全部門)

### 4 化学物質使用量削減

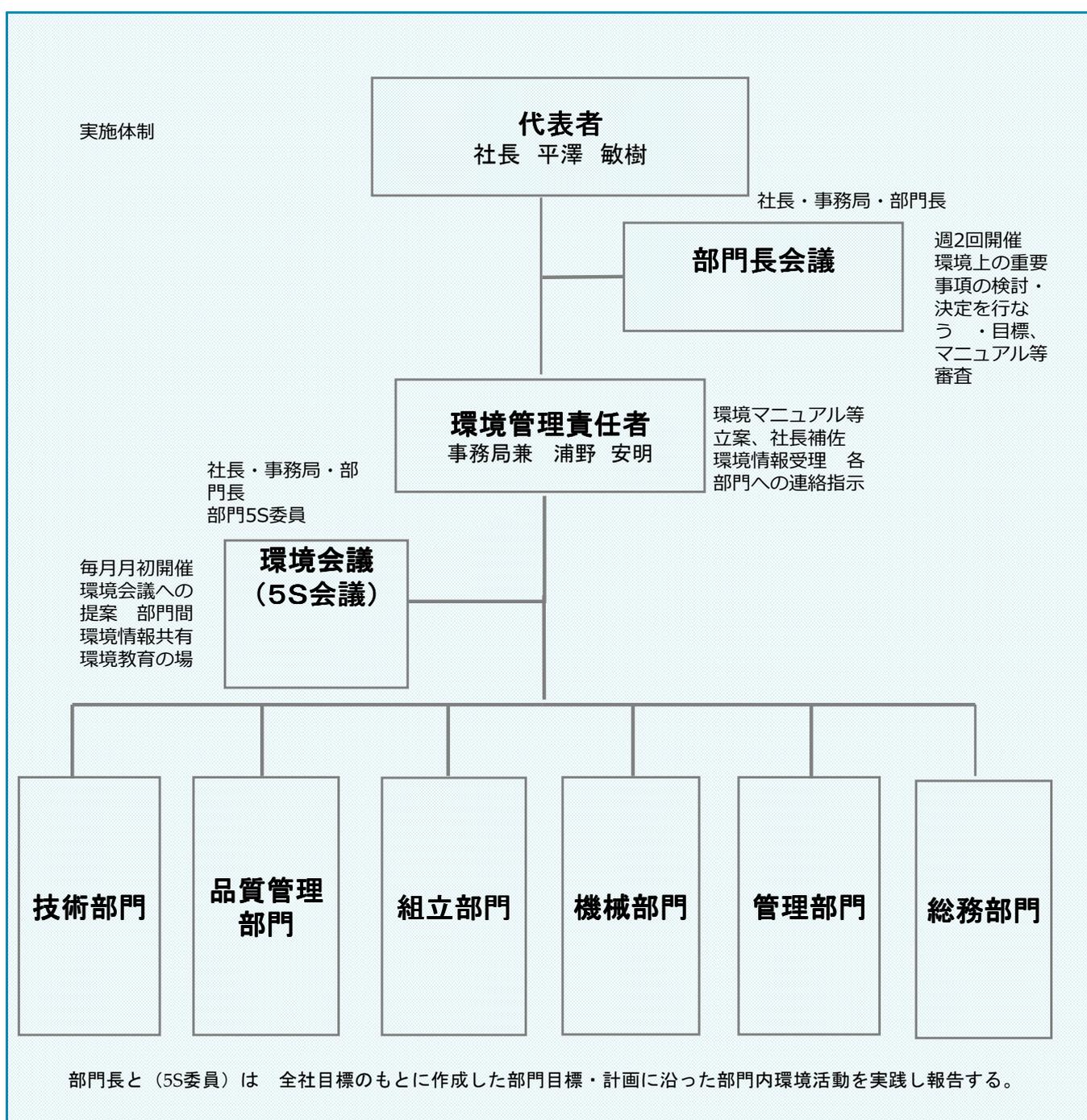
- ① 取引先より使用禁止物質の含有量調査 (管理部門)
- ② 化学物質購入時にSDS取得とSDS管理 (総務・使用部門)
- ③ 主要溶剤の管理削減 (組立部門)

### 5 グリーン購入の実施

- ① グリーンサプライヤーからの購入維持とグリーン調達基準に基づく購入継続中 (総務・管理部門)

## 6 製品への環境配慮その他（部門毎実績）

- ① 管理部門---新規品の取込み →年間目標120P / 実績 197P獲得  
---在庫回転率向上
- ② 技術部門---新規品の取り込み、工程時間削減、合理化による負荷削減  
→ 61件実施
- ③ 総務部門---売上増のため助成金利用、資金運用 → 8件実施  
長野県SDGs登録 → 2022/4/30登録
- ④ 機械部門---加工時間の短縮、工程の短縮、治具化 → 47件実施
- ⑤ 組立部門---工程時間削減のための改善 → 12件実施
- ⑥ 品質管理部門---不良損金削減25万以下 → ￥232,704



## 7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果と その評価実績には二酸化炭素排出量を含む)、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

### 7-1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価

2022年度環境経営目標進捗表

環境目的	具体的目標	責任者/対象部門	目標値	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	対象期間累計平均値 達成状況
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量前年比1%減	総務/全社	kg/CO2/年 昨年月比1%以下 (99%以下)	65,334.3 ×	68,096.2 ×	63,951.1 ×	56,399.0 ×	47,411.0 ×	59,797.0 ×	69,515.0 ×	62,750.0 △	63,905.0 ×	52,462.0 ○	61,053.0 ○	65,506.0 ×	61.266 ×
	エコ通勤の維持継続/エコドライブの実施	総務・管理部門長/全社	エコ通勤月平均 31日以上(1・2・ 12月除く)	29 29	41 41	56 ○	34 ○	28 △	46 ○	37 ○	66 ○	127 ○	108 ○	95 ○	59 59	74.6 ○
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ削減・廃棄物管理	総務部門長・機械 部門長/全社	ゴミ153.25kg/月 廃油1.518t/月 以下	251.6 ×	160.5 △	160.5 △	254.8 ×	157.3 △	175.8 ×	85.2 △	163.7 ×	185.0 △	235.6 ×	245.4 △	170.8 ×	186.7 1.58 ×
	機械・備品の長期使用	各部門長/全社	各部門目標	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	48-48 ○
水使用量削減	水使用量維持・管理	総務部門長 機械部門長/全社	75.57 <sup>リットル</sup> /月以下	83 △	90 ×	86 △	87 ×	76 △	117 ×	87 ×	75 ○	99 ×	111 ×	92 ×	84 △	90.58 ×
化学物質使用量削減	取引先使用禁止物質の使用中止/化学物質削減	対象部門長/ 管理製造部門長	活動維持	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○
グリーン購入の実施	グリーン購入維持	対象部門長/ 総務 管理	活動維持	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP(経費削減)新規品獲得	対象部門長/ 管理・総務・技術	部門目標	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	36-36 ○
	工程時間削減・環境負荷削減の工夫	対象部門長/ 機械・組立・技術・ 品質	各部門目標	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	48-48 ○
	不良損金削減	品質管理部門長/ 機械	25万/月以下	21,856 ○	71,892 ○	117,533 ○	116,287 ○	37,723 ○	1,711.356 ×	81,781 ○	78,210 ○	291,617 ×	83,216 ○	144,931 ○	26,044 ○	232.704 ○

○は達成・継続中 △は目標値10%未満 ×は10%以上開きがあり未達 -は評価不能 他各目標達成部門(上段左の数)が8割以上○ 5割以下× 他△

### \*\*\* 2022年環境経営目標の達成状況報告 \*\*\*

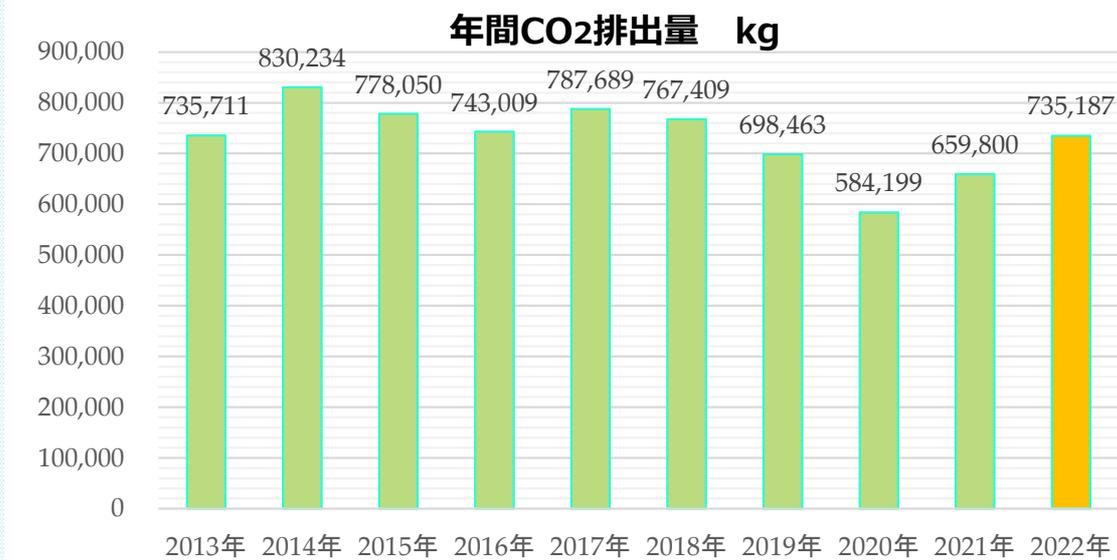
----- 目標はほぼ達成できた。 -----

今期から新しい「中期環境経営目標」に基づき活動してきた。  
目標10項目に対して達成は(ほぼ達成1項目も含む)7項目だった。  
未達の3項目(二酸化炭素排出量削減、水の使用量削減、ゴミの削減)の原因については、今年は売上対比31%UP、従業員増加比33%UPと、昨年のコロナ禍からの業績が回復したことで生産設備の稼働時間の増大等で使用電力の増加、同じく従業員数の増加による生活使用水・可燃ゴミの増大となってしまった。  
未達の3目標はそれ自体業績に大きく影響される。今年は売上増の割合よりは3つの環境負荷は増えていないため問題なしと判断した。  
重要視している「売上利益UP(経費削減)」「工程時間削減環境負荷削減の工夫」「不良損金削減」については達成出来たことは評価出来る。

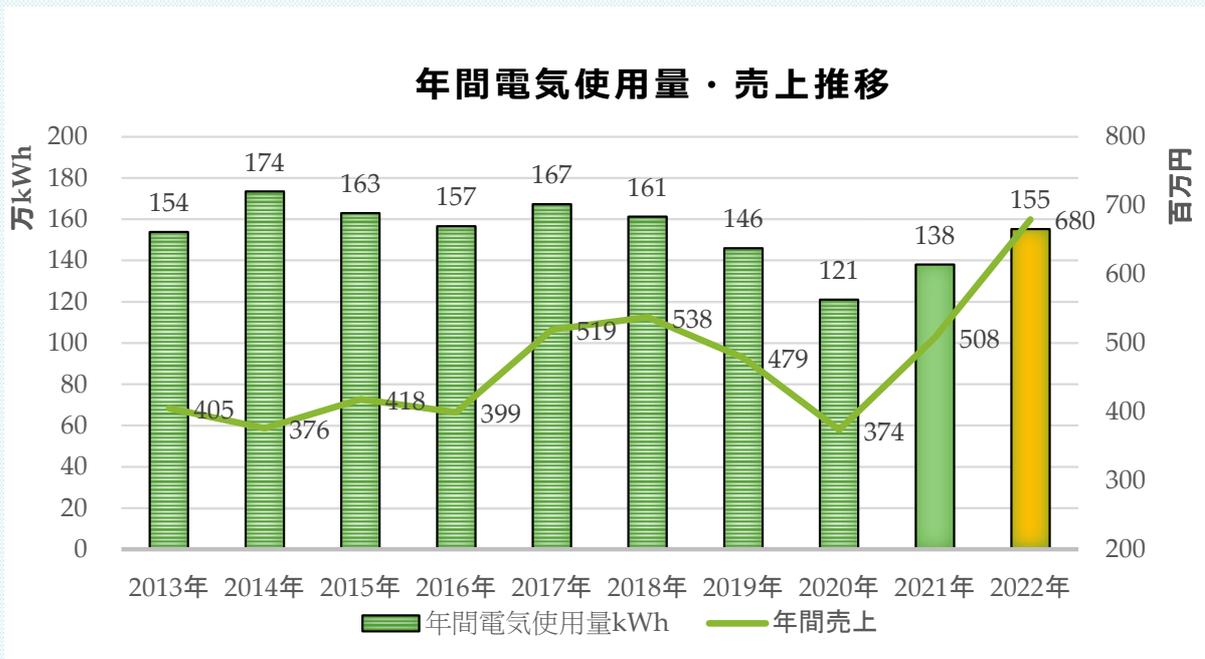
(環境管理責任者)

## 1 二酸化炭素排出量の削減について

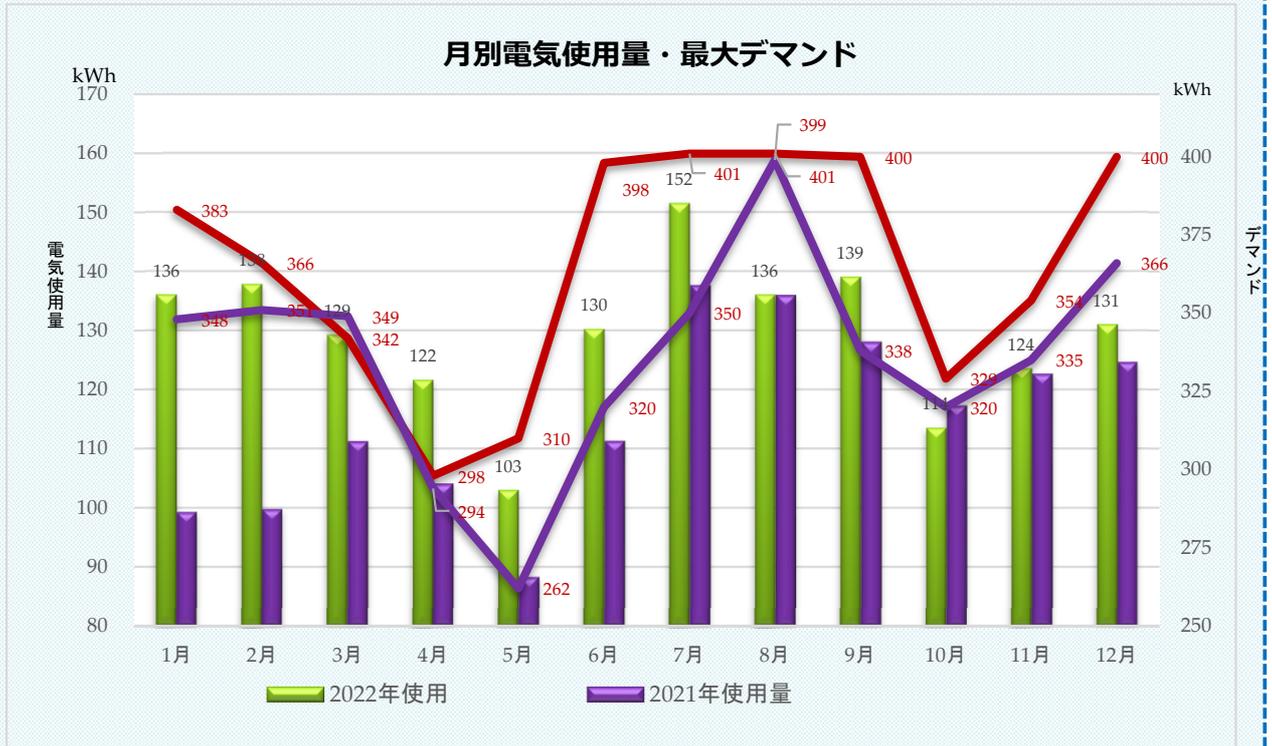
①二酸化炭素排出量653,202kg/CO2以下-----735,187kg/CO2 未達成



※排出係数0.447 (日本テクノ(株))  
平成28年度 調整後



※二酸化炭素の排出量は10%近く目標をオーバーした。これは昨年実績値が5月までコロナの影響を受けて低かったが、今年は売上比131%と業績好調による稼働設備、空調関係の電気使用量増大によるものである。売上の増大分だけの二酸化炭素排出量が増大にはなっていないことを評価したい。

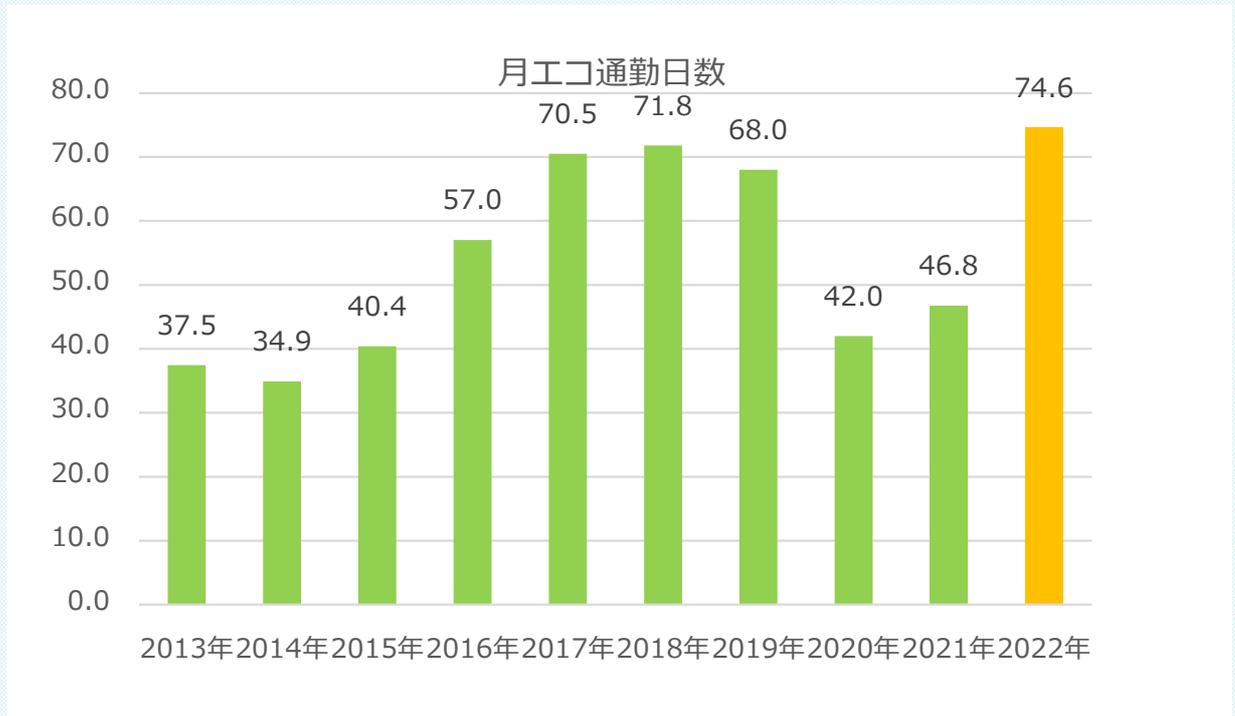


※電気使用量とデマンドについて

電気料金については昨年10月より燃料代の高騰が続き昨年に比べ3割アップしている。金属素材費の高騰と合わせて製造コストに大きな影響が出てきている。電気契約では市場型の恩恵もなくなり昨年秋以降固定型に切り替えたままである。

節電対策として、古い大型コンプレッサー1台を新しいものに入れ替え、あわせて外部タンクを設ける事でその稼働回数を削減した。また古くなったエアコンを新しいタイプの節電型エアコンに入れ替えた（組立、品質）。今後電気料金の値上げが予定されているため、快適な職場環境を維持しながらの節電を進めて行かなくてはならない。

②目標 エコ通勤日数 31日/月 以上（冬季除く） ----74.6日/月 全月達成



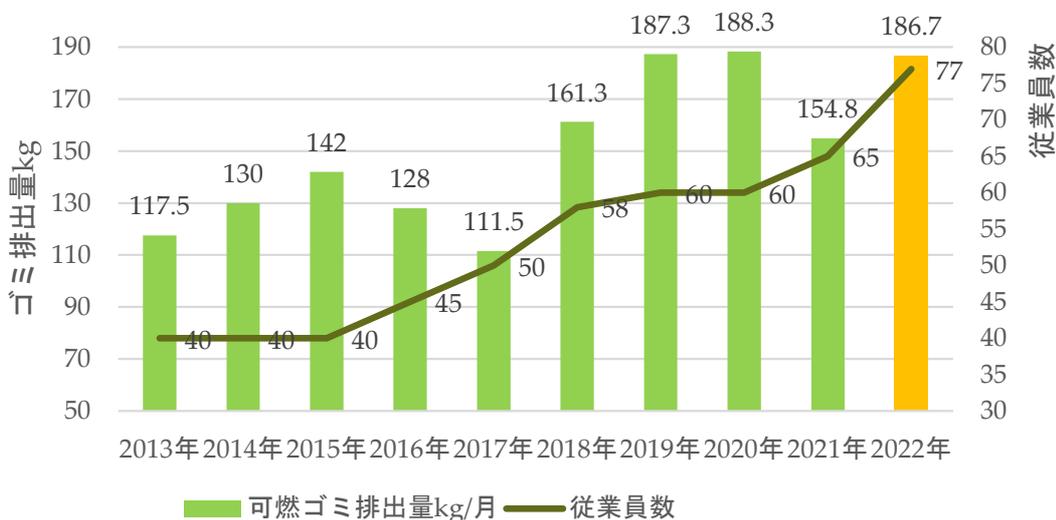
※9月には恒例の長野県主催の「信州スマートムーブ通勤ウィーク」に参加した。

## 2 廃棄物排出量削減

①可燃ゴミ153.25kg/月以下———186.7kg/月 目標未達

②廃油 1.51 t/月以下 —————1.58t/月 目標未達

### 可燃ゴミ排出量・従業員グラフ

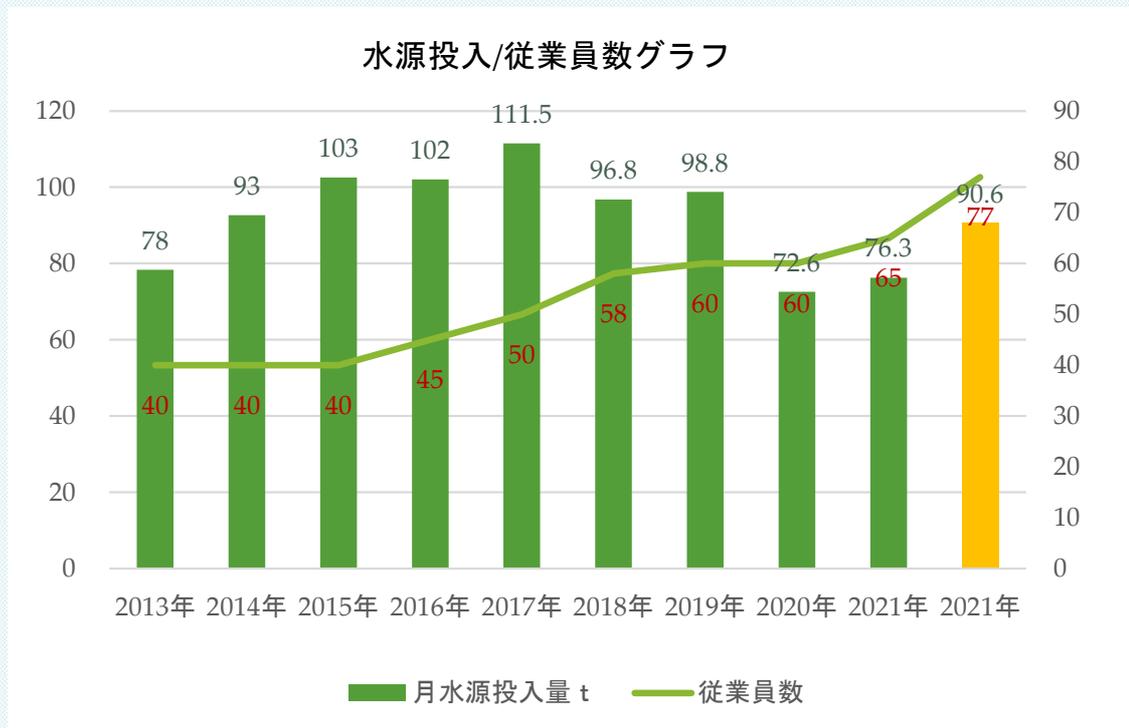


### 廃油排出・年間売上売上グラフ



※昨年実績値が低かったため可燃ゴミ・廃油、水の使用量は削減できず未達。

**3 水使用量削減 数値目標 75.57 t /月以下 ----- 90.58 t /月 未達**



※機械部門では、機械職場内4箇所加算メータ設置により、各エリアで月々の正確な使用量を把握している。またその管理は継続されている。

**4 化学物質使用量削減 目標 取引先使用禁止物質の使用中止 ----- 達成**  
製造部門・管理部門が維持継続中

**5 グリーン購入の実施 目標 グリーン購入の維持 ----- 達成**  
総務・管理部門が維持継続中

- 6 製品への環境配慮**
- ①工程時間削減又は合理化による負荷・無駄の削減 ----- 達成  
製造部門・技術部門で活動
  - ②売上・利益アップ ----- 達成  
3部門対象（管理・総務・技術）で活動
  - ③不良損金削減 25万/月以内 ---23.7万円/月 達成  
品質管理 機械部門---品質、安全衛生、環境からのアプローチをかけ重点目標として活動してきた。特に3Sの徹底

## 7-2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

### 2023年 環境経営計画書

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等	2023年の主な行動計画
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	総務部門長/ 全社	前年実績1%減 (対昨年毎月)	①デマンドコントローラー・スマート クロックによる監視・管理 ②節電対策実施 ③節電設備検討 ④省エネ委員活動 ⑤節電表による管理継続
	冬季（12月～2月）を除 いたエコ通勤の 維持継続・エコドライブ 実施（管理部門）	総務・管理部門 長/ 全社	31日/月以上	①エコ通勤呼びかけ、活動報告掲示 ②駐輪場整備・自転車点検整備等 ③信州スマートムーブ参加 ④社用車のエコドライブの実施
廃棄物排出量削減	可燃ゴミと廃油削減	総務・機械部門長 (廃油)/全社	前年実績1%減 (ゴミ184.80kg/月 以下) (廃油1.567t/月以 下)	①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけ ②月ごと結果発表掲示 ③コピー両面使用 ④電子媒体促進、配布書類削減 ⑤廃棄切削油把握削減 ⑥油漏れ対策
	機械・備品の長期使用	製造部門長/ 製造部門	部門目標	①予知保全を考慮した各種設備備品 日常・定期点検の実施 ②整備点検教育の実施 ③各種精度点検の実施 ④レベル点検 ⑤設備保全技能教育
水使用量削減	水使用量維持管理	総務部門長/ 全社	前年実績1%減 (89.67 t /月以下)	①毎月使用量内訳再把握 ②水漏れ点検 ③生活排水の節水呼びかけ ④月使用量のグラフ作成掲示
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理・製造部門 長/ 管理・製造部門	維持 部門目標	①使用禁止物質の含有量調査 (客先調査協力時)記録 (管理部門) ②新規溶剤等購入時にSDS取得 ③主要溶剤・切削油管理・削減 (製造部門)
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持	総務・管理部門 長/ 総務・管理部門	活動維持	①グリーンサプライヤーからの購入維持 ②グリーン調達基準に基づく購入継続
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・ 技術各部門長/ 同部門	部門目標	①新規品の取り込み、新規開拓 ②材料費の見直し ③経費節減 営業外収益
	工程時間削減・環境負荷 削減の工夫	製造・技術部門長 / 製造・技術部門	部門目標	①工数把握 加工時間短縮 ②工程管理表の有効活用 ③プログラム修正 ④工程削減治具作成 ⑤外段取りの構築 ⑥環境負荷削減の工夫・検証
	不良損金削減	品質管理部門長 / 機械部門	24万/月以下	①不良集計表の作成・掲示 ②不良原因調査・対策実施 ③不具合対策表・不良損金報告書作成

## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

### 最新の「環境法令等登録兼チェック表」の通り

#### 2022/11環境法令等登録兼チェック表

適用法令	項目・条文	内 容	対象品・施設	チェック内容	判定 ○/×
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : H26.6.13改正  (H23.4.1施行) 水銀に関する水俣条約 (H29.8.16)	12条2 (産業廃棄物保管基準)	1保管場所の囲い、構造耐力安全であること 2必要な事項を記載した掲示板60×60以上 3保管場所からの産廃の流出等防止、保管場所の衛生管理	・ゴミ置き場 ・廃油置き場 ・危険物置き場  委託契約書 許可証	総務部門 1確認済 2確認済 (清掃) 3確認済	○ ○ ○
	12条3 (委託の基準)	運搬又は処分を委託する場合には収集運搬・処分を受けた業者に委託	マニフェスト (管理票)	確認済	○
	12条の3 (産業廃棄物管理票)	1産廃委託する場合種類ごと、運搬先ごと引き渡し時に必要事項を記載してマニフェストの交付とその写しの回収(90日、最終処分180日)回収出来ない場合の措置と報告義務	マニフェスト報告書	1確認済	○
	12条7	2 マニフェスト(写し)の5年保管  3マニフェスト発行状況の報告を毎年6月30日までに都道府県知事へ提出  産廃物の処理状況の確認と適正のための必要処置を講ずる(努力義務)  産廃物保管場所の掲示板表示	産廃業者  産廃置き場	2保管中  3提出済 (2022/6/10)  2022/11/7 電話で確認  2022/11/7 確認	○ ○ ○ ○
家電リサイクル法 H23.6.24改正	6条 (事業者の責務)	特定家電長期使用、排出抑制 廃棄の際、適切な引渡し・料金支払	テレビ・エアコン・冷蔵庫 洗濯機	総務 2017/11 以降廃棄無し	-
小型家電リサイクル法 H25.4.1		可能な場合、対象物を分別して認定業者に渡す事	携帯電話・デジタルカメラ他	総務 2022年は該当無し	-
水質汚濁防止法 : H23.8.30改正	12条	特定施設ではない 排水基準に適合しない排水を排出禁止 (コンプレッサーのドレイン水の油水分離)	コンプレッサー 2台 排水管理	業者点検実施済 継続中(月1回) 技術部門 問題なし	○
下水道法 : H26.6.13改正	12条の2	① pH9を超える処理液の場合は、水質汚濁防止法別表1の65酸又はアルカリによる表面処理施設に該当し、特定施設となる。(届出等必要)  ②下水道には下水道基準(pH9等)を超える排水を流さない。	バレル室 第二洗浄室 工場内洗面所	機械仕上 第二工場 ①現状該当無 ②バレル室は現在水のみ 第二工場は希釈して排水を実施中	- ○

騒音規制法 :H17.4.27 改正	6条 (設置の届出)  伊那市環境保全 条例 (12条)	特定施設を設置する場合市町村長へ届出 (コンプレッサー2台)  発生する騒音の規制 届け出のみ(伊那市) (70-65db以下)	コンプレッ サー ( 37kW2 台)	総務部門 届出済 2022/8/25 1台入替 2022/9/5届出済 入替分 2015年 コンブ レッサー9/11年次 点検済み	○  ○  ○
消防法 H26.6.13  危険物の規制 に関する規則 H23.2.1  危険物の規制 に関する政令  伊那市条例	9条3  第18条  同省令  14条3の2	指定数量以上の危険物があるか 届出しているか  ①危険物標識の掲示 ②既設地下貯蔵タンクの流出防止対策等 2024/10/15まで対策実施する事  定期に点検し、その点検記録を作成し、 これを保存  指定数量以下(1/5以上)届出(消防署)	地下タンクの 石油 地下タンク  地下タンク  地下タンク  少量危険物置 場	総務部門 確認済 届出済 ①確認済 ②10/7ライニング 工事実施済み 届出中  2022/5/24 定期点検実施 保存確認済  届出確認済	○ ○ ○ ○  ○ ○
特定化学物質 の環境への排 出量の把握等 及び管理の改 善の促進に関 する法律： H14.12.13	2条 5条 (排出量等の把 握及び届出)  14条	第一種指定化学物質等取扱事業に該当す るか (第一種指定化学物質のいずれかを1年 間に1t以上取り扱うか) PRTR制度より排出・移動量の届出(6月 まで)	把握後判定	総務部門  非該当	-
フロン排出抑 制法 H27.4.1	施行規則による	①機器の設置環境・使用環境維持保全 点検・修理を行う作業空間の確保はで きているか ②簡易点検・定期点検の実施をする 簡易点検 1回以上/3ヶ月7.5kw未満 定期点検 1回以上/1年----50kw以上 1回以上/3年----7.5kw以上 50kw未満 点検整備記録の作成・保存 ③フロン漏洩時の措置 修理が終わりまで充填禁止 一定以上の漏洩は国へ報告義務 ④フロン充填・回収、製品の廃棄は「第 一種フロン類充填回収業者」へ委託 必要書面の交付・保存をする	各所工場設置 箇所	総務部門 設置部門  ①確認OK ②簡易点検実施済 み3月ごと  ③漏洩無し  ④該当無し	○ ○  ○  -

2022年11月 7日現在の環境法令遵守状況をチェックし、法令に遵守していることを確認しました。また過去3年間違反・訴訟の無いことを報告します。

2022年11月 7日 総務部門長 浦野 安明

## 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

-----前回マネジメントレビューでの代表者からの課題-----

- ①航空・宇宙関連業者との取引量を増やし、売上の大きな柱になるよう育てましょう。
- ②工数の削減及び効率の向上の為、工程負荷の見える化に挑戦しましょう。IoTを利用し工場内の物の動きと負荷を見える化しましょう。
- ③個々の仕事の専門性と職業倫理(コンプライアンス)の向上を図りましょう。
- ④見た目の美しさを重視し、5Sに取り組みましょう(工場内が昭和のにおいがします。時代に追いつきましょう)
- ⑤社内のみならず周辺の美化に協力しましょう。

----- 結 果 -----

- ① 航空・宇宙関連業者との取引量は売上対比108.5%と増加している。  
また新規取引先1社増。予定より少なかったのはロケット関係の受注がH3ロケットの発射成功が見込めない中、受注が保留状態になってしまった事による。  
来年としては防衛関連の受注が増えそうである。
- ② 工数の削減及び効率の向上の為、工程負荷の見える化に挑戦外部コンサルタントを招聘し8月1日キックオフ、10月末完了した。今後はシステムの有効活用を計る。
- ③ 技能検定・機械保全、各種専門試験等挑戦中、可能な限り自己修理対応実施  
コンプライアンスについては各職場にて教育実施。
- ④ 5S会議にてクリーンパトロール報告、対策現場検証など実施継続中
- ⑤ 毎年秋になると当社に植えてあるケヤキの木の大量の落ち葉が近隣に舞い散り迷惑をかけてきた。2月に全て伐採することで落ち葉が無くなり、周辺が綺麗になった。  
また国道153号の法面の草刈を4回行なった他、機械部門では5S活動の一環として会社からショッピングセンターまでの道路のゴミ拾いを行なった。

以上①～⑤について対応できた。また環境・安全衛生・品質の活動の融合化とともにBCP、CSR、SDGsについても取り込みながら活動しているのでこれをもっと進めて行きたい。

環境管理責任者 浦野 安明

----- 代表者より -----

- ①お取引先ごとの前年対比10%UPの売上目標値を立てそれを基に月々の目標値を数値化し自分たちの予測した3か月先の売上予測値との乖離を埋めるべく営業活動をしましょう。
- ②さらに5S活動を進め、安全で快適な職場を作りましょう。
- ③コンプライアンス(職場倫理)の向上をさらに進めましょう。
- ④工場の敷地をふくめ道路にもゴミの放置が目立ちます。月に一度工場回りの美化をしていただいています。わずかですがこれも社会貢献です。社会の役にも立ちましょう。

環境方針変更の必要性

有 無

環境目標変更の必要性

有 無

環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性

有 無

代表取締役 平澤 敏樹

## 10. その他の取り組み・トピックス

### 1) AEDを設置、操作方法の訓練をしました



AEDは、突然の心停止を起こして倒れた人を、そこにいる人たちがその場で使って倒れた人の命を救うことができる医療機器です。

最近は音声ガイダンスなどで操作方法を案内してくれるため、専門知識のない人でも簡単に使用できるようになってきました。

当社でも従業員が増えて、まさかの際に備えて9月にAEDを設置しました。またこの使い方をマスターするため全従業員対象に研修をおこないました。AED装着方法以前に胸骨圧迫（心臓マッサージ）がより大切なことも学びました。訓練を実施したことでまさかに備えての知識と安心を得る事が出来ました。

### 2) 3年連続して「健康経営優良法人」認定

社員一人ひとりが原動力です  
「企業を動かす原動力は『人財』である」

約半世紀、平沢電機が着実に実績を上げ業績を伸ばして来た原動力は、社員一人ひとりが持つ無限のエネルギーを大切に、個々の力を最大限活かし発揮できる体制と社員が働きやすい組織づくりです。  
2020年、当社は初めて経産省の「健康経営優良法人2020」に認定され、引き続き2021年度、そして今年も「健康経営優良法人2022」の認定を頂くことが出来ました。

また10月にはそれまであった「安全衛生マニュアル」をISO45001に準拠した新しいものに構築し最新の安全衛生マネジメントを導入しました。今後このシステムの運用、監視、見直し、維持改善に努めて参ります。

そして積極的に健康経営の推進に取り組んでまいります。



### 3) 社屋周辺の3S活動実施

国道153号の法面の草刈を4回行った他、機械部門では3S活動の一環として会社からショッピングセンターまでの道路のゴミ拾いを行ないました。

# 11. 総合防災訓練・全体研修実施

## 1 総合防災実施 10月14日実施

### ①「火災訓練」については

各職場で火災が発生（職場にて火災の発生の状況が異なる）、初期消火と避難方法  
避難後の連絡対応の訓練を行なった。

具体的には、初期消火後濃煙火災時の避難方法の確認と避難経路の確認  
迅速な避難行動が出来ているかの確認

報告手順の確認（各職場→各指揮隊長→副隊長→消防隊長）と報告内容の確認

初期消火係の消火器、救護係の救急箱、搬送係の重要物を確認を行なった。

また新たに部門毎に目標避難時間を設定しその達成状況の確認を行なった。

結果、すべての部門で適切な避難行動が出来ていたことを確認した。

### ②「油漏れ訓練」については環境マニュアルの手順通りに出来るか、例年同様 廃油貯蔵タンクの油漏れ対応の訓練を実施した。

地震で廃油タンクから廃油が溢れ流出したというケースで行なった。

訓練には訓練未経験者2名が事前に部門教育を受けてから臨んだ。

訓練中、訓練内容について担当部門の5 S 委員が拡声器を使って同時説明を

行なった。オイルソックスを使い油流出阻止処置、流失した油のバキューム処置を  
行なった。

結果、油漏れ訓練はマニュアル通り出来ていた事を確認した。

## 2 全体研修等実施（防災訓練後の集合研修として）

### ①BCP変更点について

- ・ BCPの説明、コロナ対応指針の説明
- ・ 今年の変更点 連絡網の確認と各自で携帯カードを作成した

### ②エコアクション21活動状況報告

- ・ 目標の進捗状況の説明

### ③その他連絡

- ・ 新労働安全衛生マニュアルに付いて
- ・ 労災発生状況とリスクの発見
- ・ マイナンバーカード作成補助

### ④AED操作法を学ぶ

## 防災訓練風景



油漏れ訓練



## 研修風景

